

県がコンシェルジュ開設

五輪合宿誘致、支援します

市町村に情報、視察対応も

2020年の東京五輪・パラリンピックに向け、県は15日、外国チームの事前キャンプ誘致や、スポーツと観光を融合させた「スポーツツーリズム」の促進を目指す支援窓口「県スポーツコンシェルジュ」を開設した。2人の専従職員を配置し、競技施設やホテルなどの情報をワンストップで提供。県内視察をはじめとした市町村の誘致活動などの相談に応じるほか、国内の大学や高校の合宿誘致も展開する。



スポーツコンシェルジュでは大久保利宏さん(右)と鈴木明さん(中央)の専従職員2人が誘致活動を支援する=千葉市美浜区のちば国際コンベンションビューロー

東京五輪に向けた事前キャンプ誘致は、県内でも山武市や鴨川市などで動きがあるが、これから新たに誘致を目指す市町村からは「どう動けばいいのかわからない」などの声も寄せられていた。今回のコンシェルジュは、フィルムコミッションや国際会議の誘致などの実績がある財団法人「ちば国

際コンベンションビューロー」(千葉市美浜区)に委託。法人の施設内に窓口が開設され、15日から業務がスタートした。窓口では、02年日韓W杯サッカーの際に誘致活

動に取り組んだ元高校校長の大久保利宏さん(60)と、フィンランドでダンスを通じて国際交流活動の経験がある劇団主宰者の鈴木明さん(56)が専従で対応。誘致したい国や競技など市町村のニーズに合った情報を提供したり、日本と各国の競技団体との仲介に当たるほか、競技関係者らによる県内視察の際には同行し誘致活動をバックアップする。今後は、キャンプに使用

できる県内のスポーツ施設と、選手が宿泊できるホテルを結び、データベースを構築。年内にはホームページを作成し、こうした情報を掲載する考えだ。「世紀の祭典に関われることは大変な誇り。多くの世代に感動が広がるようがんばりたい」と意気込む大久保さんと鈴木さん。県政策企画課は「キャンプ誘致にとどまらず、温泉など県内観光を楽しみたい人もターゲットにしていきたい」と話している。

「世の祭典に関われることは大変な誇り。多くの世代に感動が広がるようがんばりたい」と意気込む大久保さんと鈴木さん。県政策企画課は「キャンプ誘致にとどまらず、温泉など県内観光を楽しみたい人もターゲットにしていきたい」と話している。

「世の祭典に関われることは大変な誇り。多くの世代に感動が広がるようがんばりたい」と意気込む大久保さんと鈴木さん。県政策企画課は「キャンプ誘致にとどまらず、温泉など県内観光を楽しみたい人もターゲットにしていきたい」と話している。